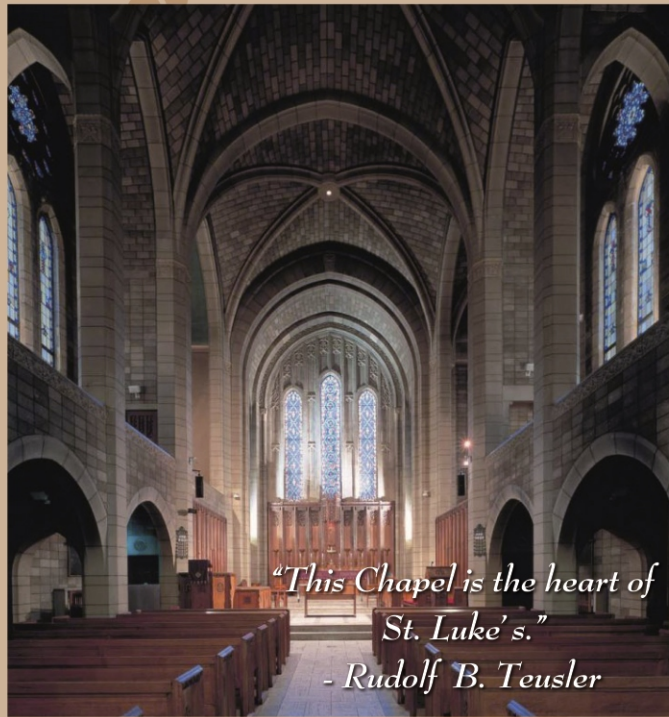




ようこそ 聖ルカ礼拝堂へ

Welcome to St. Luke's Chapel



「Let the work go on」 創立者トイスラーの遺志を伝え、歩みつづける礼拝堂



創立者
ルドルフ・B・トイスラー

1900年、宣教医師トイスラーは23歳の若さで来日し、翌年、診療所を開設しました。1907年には診療所は三倍の規模になり、1923年には木造四階建てまで大きくなっていましたが、関東大震災で全倒壊焼失。1924年に急遽建てた木造二階建ての仮病院も半年後に火災で焼失。それでもトイスラーは不屈の精神ですぐに病院再建設を始め、1925年5月には以前より二倍以上大きな木造病院ができました。その後もさらに理想の病院を目指し、1933年、耐火建築の国際的大病院(現在の旧館)が落成したのです。しかしその翌年、心臓病のためトイスラーは「Let the work go on」という言葉を遺し、この病院で58歳の生涯を閉じました。そのときはまだコンクリートの床しかなかった現在の礼拝堂がある場所で葬儀が行われました。病院の建設に遅れること3年、1936年に礼拝堂が完成しました。「礼拝堂は聖路加の中心的位置を占めるべきこと」としていたトイスラーのキリスト教精神が今も聖ルカ礼拝堂に生き続けています。

聖ルカ礼拝堂の働きのため、祈りと支えを！

聖ルカ礼拝堂は80有余年の時を重ね、多くの人々が訪れ、祈り、神様を賛美し、自分を見つめ直し、オルガンの音を聴き、嘆き、悲しみ、喜び、癒され、再び人生を歩み始めるなど、そのお一人お一人にとっての大切な舞台となってきました。1992年に新病院(現在の本館)が完成するまで、礼拝堂は病院の建物の中心に位置しており、どの病棟からも礼拝堂バルコニー席に出て祈ることができ、患者さんの精神的な支えになっていました。新病院建設計画の際には、礼拝堂がなくなるかもしれないという危機がありましたが、建築家やチャペルを愛する大勢の人たちの願いが叶えられて存続できました。この祈りの場を、今後もさらに多くの人々に提供していくために、一日も早く礼拝堂としての働きを再開いたしたく、皆様のお祈りとお支えをお願いいたします。



主任チャペレン
上田 憲明

ご協力のお願い 聖ルカ礼拝堂整備募金募集要項

1. 目標額 5億円
2. 用途：聖ルカ礼拝堂の改修および耐震工事費用に充当させていただきます。
3. 金額：個人、法人、団体の皆様 金額の定めはございません。(金額の多寡にかかわらずありがたくお受けいたします)
4. お申し込み方法：「寄付・お問い合わせフォーム」よりお申し込みください。募金室よりお手続き方法についてご案内いたします。



寄付・お問い合わせフォーム
<http://www.luke.ac.jp/church/contact/>

5. 税制優遇：本寄付金は教育研究のための寄付金として税制の優遇措置の対象となります。詳しくは、募金室担当までお問い合わせください。
6. その他
中央区では、中央区外に在住の方を対象に、区内で活動している団体を応援する中央区版ふるさと納税「ふるさと中央区応援寄附」を行っています。学校法人聖路加国際大学を指定して中央区へ寄付をされますと、ふるさと納税による寄付金控除が受けられます。詳しくは東京都中央区の「ふるさと中央区応援寄附」までお問い合わせください。
東京都中央区 総務部総務課 TEL 03-3546-5625

ご連絡・お問い合わせ
学校法人聖路加国際大学 募金室
〒104-0044 東京都中央区明石町10-1
TEL 03-5550-2368(直通) FAX 03-5565-1626
e-mail bokinsitu@luke.ac.jp



佐々木 新一 Shinichi Sasaki
学校法人聖路加国際大学 理事長



聖ルカ礼拝堂は、1936年の完成から80年以上の間、聖路加の理念であるキリスト教の愛を示し続けてきました。私たちにとって最も大切な祈りの場であり、悲しみや苦しみに寄り添ってきた、かけがえのない空間です。長い間、多くの人々が集い、祈り続けてきましたが、建物の老朽化による改修工事が必要となり、一時的に使用を停止せざるを得なくなりました。医療、看護、保健福祉、公衆衛生の教育を授ける場として、そして地域の皆様にとっての教会として、ふたたび祈りと慰めの機会を提供できるよう、皆様からのご支援を賜りたく心よりお願い申し上げます。

クリスマスイブ礼拝



入学式



堀内 成子
Shigeko Horiuchi
聖路加国際大学 学長



大学の学事歴は、入学式・始業式礼拝から始まります。聖路加国際大学で医療・看護・保健福祉・公衆衛生学を学ぶ学生、教える教職員にとって聖ルカ礼拝堂は、その精神性の核となる場所です。学びの過程・教える過程においては、受け入れられない難問があり、解決策が見出せない苦悩の時間があります。そのような時、聖ルカ礼拝堂で静かに内省し、神様のご計画は何か、自分の使命は何かを問う時間があります。臨床実習前の祝福式、クリスマス礼拝、卒業式・修了式は、過ごした日々に感謝し、未来への決意と願いを表明する時間です。このような欠くことのできない祈りの場所が、朽ちることなく安全な建物として存在し続けますようお願い申し上げます。



入院中に洗礼を受ける患者さん



教職員の結婚式

石松 伸一
Shinichi Ishimatsu
聖路加国際病院 院長



創立者・トイスラー博士の言葉にもあるように、聖路加国際病院は、キリスト教の愛を誰もがすぐに分かるように作られた病院です。そして、聖ルカ礼拝堂は、聖路加国際病院が求めてきた平和と健康の象徴です。その象徴としての存在は、塔上から流れるカリヨンの音と共に人々の心を癒してくれます。1945年東京大空襲の時も、1995年地下鉄サリン事件の時も、傷ついた人々が十字架の元に集まり、治療を受けました。いつまでもこの礼拝堂が、神様の栄光と人類奉仕のために、その象徴であり続けることができますように。どうか皆様のお力添えを頂きたく、ここに衷心よりお願いを申し上げます。



大学院修了式

山内 英子 Hideko Yamauchi
聖路加国際病院 副院長 キリスト教センター担当理事



聖ルカ礼拝堂は多くの患者さんが、病と診断され悩める心を持ちながら、足を運んでくださる場です。この場で、誰にも見せることができない涙を流す方。涙の後、病を受け入れる覚悟を決めていく方。一緒に祈らせていただくこともあります。まさに聖路加国際病院の理念である「人の悩みを救うために動く愛の生きた有機体」心臓部です。聖ルカ礼拝堂はずっと長い間、この日本において心を落ち着ける場を提供し続けてまいりました。その愛の炎を絶やさないために、皆様の愛をお願いいたします。皆様のご支援で再出発させていただく聖ルカ礼拝堂でこそ、悲しみを乗り越え、祈り、癒されていく方々に皆さんの愛が伝わり引き継がれていくことでしょう。



ようこそ

聖ルカ礼拝堂へ

学校法人聖路加国際大学においては、祈りの場としてはもちろんのこと、創立者の精神を引継ぐ次世代の医療人の教育に欠かせぬ場として大切な役割を担い続けています。

聖壇の下に安らかに眠るトイスラー

「1936年12月13日聖路加の新礼拝堂献堂式が行われた。この礼拝堂はトイスラー氏が病院の精神的中心として最も力を入れて計画造営したもので、この聖壇の下にトイスラーの遺骨が安置されている。」

中村徳吉著『トイスラー小伝』より



ここに安らかに眠る+ルドルフ ボリング トイスラー 1936年12月13日



礼拝堂と音楽パイプオルガン

1988年、聖ルカ礼拝堂にドイツ・バロック様式のオルガンが設立されました。パイプオルガンは発注から3年目、10トンに及ぶ部品をすべて空輸で搬入し、ビルダーのマルク・ガルニエ氏以下7名の方により朝早くから夜遅くまで、1万時間を要して組み立てられました。完成されたオルガンの高さは約13メートル、パイプの数は2077本です。

聖ルカ礼拝堂の建築

設計者は建築家ジョン・V・W・バーガミニ氏。このような近代ゴシック様式の礼拝堂は日本では少なく、天井までの高さは約20メートル。床はイタリア産トラバーチンおよび大理石、一部は楯板貼り、天井と壁は抗火石貼りです。



祈り 慰め 救い 祝福
すべての人のためにある礼拝堂

1901 (明治34)

● 2月 聖路加病院創立

1912 (明治45) ● 病院内に小さな礼拝堂が設けられる (第1のチャペル)

1917 (大正6) ● 聖路加病院を聖路加国際病院と改称

1923 (大正12) ● 9月1日 関東大震災で病院建物を失う

1924 (大正13) ● 6月 仮病院竣工

1925 (大正14) ● 11月8日 礼拝堂完成感謝聖餐式 (第2のチャペル)

1933 (昭和8) ● 新病院 (現在の旧館) 竣工

1936 (昭和11) ● 12月13日 現在の礼拝堂聖別式 (第3のチャペル)

1937 (昭和12) ● 礼拝堂にハモンドオルガン設置

1939 (昭和14) ● 第2次世界大戦勃発

1945 (昭和20) ● 終戦。病院と学校の建物すべてが接収される

1956 (昭和31) ● 5月 接収解除、返還式

1976 (昭和51) ● ステンドグラス修復

1988 (昭和63) ● パイプオルガン設置

1994 (平成6) ● 6月 再開発工のため礼拝堂閉鎖

1997 (平成9) ● 9月7日 礼拝堂での聖餐式が再開される

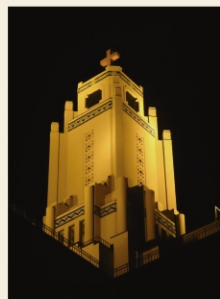
1999 (平成11) ● 東京都選定歴史的建造物として文化財指定登録される

2014 (平成26) ● 4月1日 聖路加国際病院と聖路加看護大学の法人一体化により、聖路加国際病院聖ルカ礼拝堂を、聖路加国際大学聖ルカ礼拝堂と改称

2018 (平成30) ● 6月 礼拝堂内で天井からの小さな落下物を発見。安全のため礼拝堂が閉鎖され、改修工事の準備に入る。礼拝はロビーを改装した臨時チャペルで行うこととなる

心を癒す カリヨン・チャイム

聖ルカ礼拝堂には、1962年に日米両国民の親善の証として、米国聖公会の有志から寄贈されたカリヨン・チャイム (鐘楽器) があり (1987年と2008年にリニューアル)、旧館の十字架の塔から8時30分、12時、18時の一日3回、聖歌の曲が流れています。



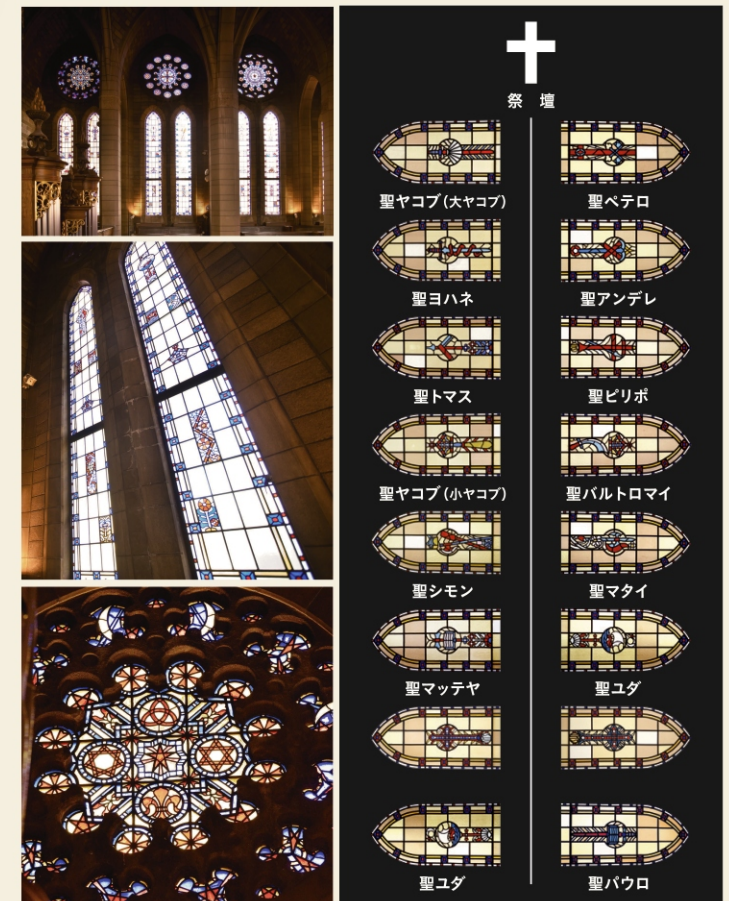
盗難に遭った大理石像

洗礼盤後方の少女は米軍接収時代に受洗したサラ・エリザベスさんの大理石像です。2003年8月、この像が盗まれましたが、その日のうちに当直職員によって見つけれ、無事に戻ってきました。



礼拝堂のシンボルステンドグラス

礼拝堂を訪れる人に感動を与えるステンドグラスは、ジョン・V・W・バーガミニ氏がデザインしました。英国ペリキントン社に依頼し、日本の別府ステンドグラス製作所が組み立てました。1976年に修復されています。



十
祭壇

聖ヤコブ (大ヤコブ)

聖ヨハネ

聖トマス

聖ヤコブ (小ヤコブ)

聖シモン

聖マッテヤ

聖ユダ

聖ユダ

聖パウロ

聖ペテロ

聖アンデレ

聖ピリポ

聖バルトロマイ

聖マタイ

聖ユダ

聖ユダ

聖パウロ